

ユニークだった先生方 <sup>(※1)</sup>中第 37 回卒 渡部 好 <sup>(※2)</sup>

私は今年 88 歳になる。昨年頃から物忘れが多くなり、我れながら驚いている。相馬中学時代は 75 年前だけに、思い出せるか不安だったが、暫く当時に思いを馳せているうち多少記憶が蘇って来たのでホットした。

多くの先生方に教えて頂いたが思い出に残るのは個性のある先生方だった。

公民を教えていたのは、渡邊義忠 <sup>(※3)</sup> 先生で真面目そのもので、教訓を重じた話が多く社会に出てからこの教訓が役立つ事が多かった。授業の中で「親子は一世、夫婦は二世」と謎めいた事を言われた。大人になったら解るといわれたがそれ以上は話されなかった。それが解ったのは小供達が結婚してからであった。

また先生は飯豊郷友会の担当だったが卒業生を送る餞のなかで「人世は良い事ばかりではない。寧ろ辛い事が多いだろう。しかし何事があっても挫けたら負けだ。前進することに幸福がある」と強調されていた。

吉田専助 <sup>(※4)</sup> 先生は 1 年乙組の担任で、元気の良い先生、生徒のやる事は総て見通していた。冬休前日の寒い大掃除に、我々はサボリ気味でやっていた。先生のご機嫌は悪く、点検が始まると、ガラス窓の棧や、四角などは不合格、掃除は遣り直し、そして「お前達は仕事を真面目にやっていない」と怒られた。さらに廊下へ 2 列に並ばされ、お互いに強い往復ビンタ、弱いとやり直し「何事も真剣にやれ」と厳しく言われた。これが社会に出てから大いに役立った。

塚田 昂 <sup>(※5)</sup> 先生は 2 年生の時に英語を習った。背の高い物静かな人で授業中にいろいろな話をしたが、時事関係がお好きの様で二・二六事件を詳細に教えてくれた。そして「君達が社会に出たら情勢を良く知っている事が大事」と言われた。

山田源吾 <sup>(※6)</sup> 先生は短い教職期間だったが、余りにも噂が多かったので忘れられない。上級生達が私達に教えてくれたのは、先生は東京府立一中、一高、東大と進学した、大秀才である、との事で皆んな驚いた。

1 ヶ月過ぎた頃に、先生は大酒飲みであるとの話が出た。それから暫くして酔うと、2 階から放尿をする。これでは困るので下宿の小母さんが「出てくれ」と抗議をしてからは、これを止めた。しかし小便を一升瓶に貯めて置き一杯になると、庭の角に並べて置くとの事だった。何事にも興味を持つ年頃の我々は、3、4 人で中村の上町にあった先生の下宿先に行くと、それは嘘ではなく一升瓶が並んでいた。

寒さに向う頃だったと思う。山田先生は授業中に「俺れが辺地の相馬まで来て、君達に教えている事に疑問をもっている」と話された。あとまもなくなくなり、東京に帰ったと聞かされた。大秀才は変わっていると皆んな呆れた。

立谷清治 <sup>(※7)</sup> 先生には 4 年生の時、英語を習った。原釜の資産家で良い先生であった。ある日、授業中に余

談をして、金持の話になり、「土蔵や倉がある家はお金持なんだなあー、先生の家には3棟ある」と言われたので、教室が爆笑となった。先生は気まづくなり赤い顔して苦笑していた事が、忘れられない。

私達も何時の間にか、先生を茶化す程に成長していたのであった。

多感な年代に先生方の教育で、人間が形成された事を今更ながら深く感謝している。

また相中、相高の先輩後輩の方々が老生が創立した東和工業グループ各社で役員や幹部で活躍してくれたから、本年3月創立50周年を迎える事が出来たと感謝している。

特に南相馬市鹿島区に進出した東北サッシで活躍している、幹部達は不況で就職難の時に相高の故荒川美雄<sup>(※8)</sup>先生が来社されて採用を依頼された。この時入社した優秀な人達で私も良かったと喜んでいる。

(※1) 『紅の旗 創立百周年記念誌』 〈2009(平成21)年1発行〉「思い出の記」(ああ、我らが青春の日々よ)より。

(※2) 相馬市出身。昭和15(1940)年卒。明大(政経)。

(※3) 飯豊出身。相中第14回、大正5(1916)年卒。日大(高師)。「相中相高百年史」の相中教員の一覧表に見当たらず。

(※4) 相中教諭：昭和6(1931)年～昭和12(1937)年。理科。

(※5) 「相中相高百年史」での名は嘉太郎となっている。相中教諭：昭和7(1932)年～昭和12(1937)年。英語。

(※6) 相中教諭：昭和10(1935)年～昭和12(1937)年。

(※7) 中村出身。相中第15回、大正6(1917)年卒。京大(経)。相中教諭：昭和3(1928)年～昭和20(1945)年。公民/英/商業。

(※8) 八幡出身。相中第36回、昭和13(1938)年卒。横浜専門。相高教諭：昭和27(1952)年～昭和49(1974)年。商業。

(転記&※脚注 村山)